

平成30年度明石市連合子ども会育成者大会

2018年6月23日（土）

こどもを核としたまちづくり

“やさしい社会”を明石から

いずみ

泉

ふさ ほ

房穂

明石市長・弁護士・社会福祉士

自己紹介

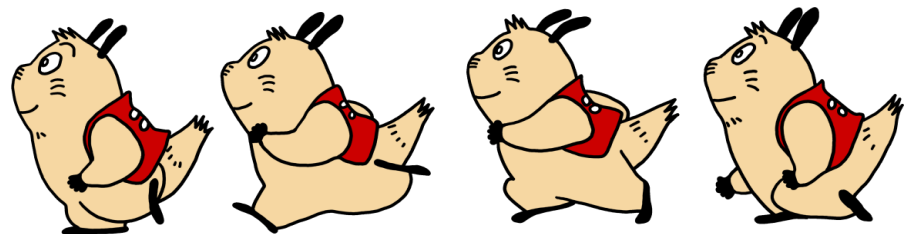
泉 房穂(いずみ ふさほ)

- 1963年 明石生まれ
- 弁護士
- 社会福祉士
- 元衆議院議員
超党派での議員立法制定に奔走
- 元NHKディレクター
- 2011年より明石市長（現在2期目）
- 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人



今日の講演の流れ

- 一 こども時代からの変わらぬ思い
- 二 こどもを核としたまちづくり
- 三 こどもにやさしいまちは
みんなにやさしいまち
- 四 “やさしい社会” を明石から



一 こども時代からの変わらぬ思い

1 こども時代

- **明石**生まれの**明石**育ち
- **子ども会活動**や**祭り**は、大切な思い出



2 大学時代

- ・ 経済学を専攻するコースに入学したが、
教育学部に移り、**教育実習**も経験



3 弁護士時代

- ・ 町弁として、**少年事件**に数多く携わる
- ・ **離婚訴訟**にも携わり、こどもが置き去りにされる現実に直面



4 国会議員時代

- “行動する国会議員”として
高齢者・障害者への法的支援、**犯罪被害者**支援などを訴え、**精力的に活動**



二 こどもを核としたまちづくり

《市長選に立候補したときの決意》

まちをつくるのは“ひと”

これからの明石のまちをつくるのは、

今の明石のこどもたち

こどもたちに借金を残すような税金の無駄遣いをやめ

頑張ることどもたちをまち全体で応援する

そんな明石をつくっていききたい

それが明石の未来につながると信じている

(市長選 法定選挙ビラに掲載した一文より)

こども支援

<4つのポイント>

1 **すべての子どもたちを**

誰一人として見捨てない ⇔ × 貧困家庭限定

2 **まちのみんなで**

行政や地域や市民みんな ⇔ × 親だけに責任

3 **一人ひとりに寄り添って**

こども目線 ⇔ × 行政目線や親目線

4 **本気で応援**

あれもこれも全部やる ⇔ × 予算の範囲内

(ワンストップ、チームアプローチ、アウトリーチ)



明石市のこども総合支援

元気を支える

- 妊婦全数面接
- 乳幼児健康診査
- あかしこども広場

虐待防止

- 乳幼児全数面接
- 児童養護施設の設置
- 児童相談所の設置

学びを応援

- 中学校給食の全校実施
- 30人学級の導入
- 本のまちの推進

子育て応援

- 中学生までの医療費無料化
- 第2子以降の保育料無料化
- 公共施設の入場料無料化


寄り添う支援

- 離婚前後の養育支援
- 児童扶養手当の毎月支給
- 無戸籍者支援
- あかし版こども食堂
- 里親100%プロジェクト



経済的負担の軽減

3つの“無料化”

- ① **こども医療費**→中学生まで完全無料
- ② **保育料**→第2子以降は完全無料 
- ③ **施設利用料**→何時間遊んでも無料

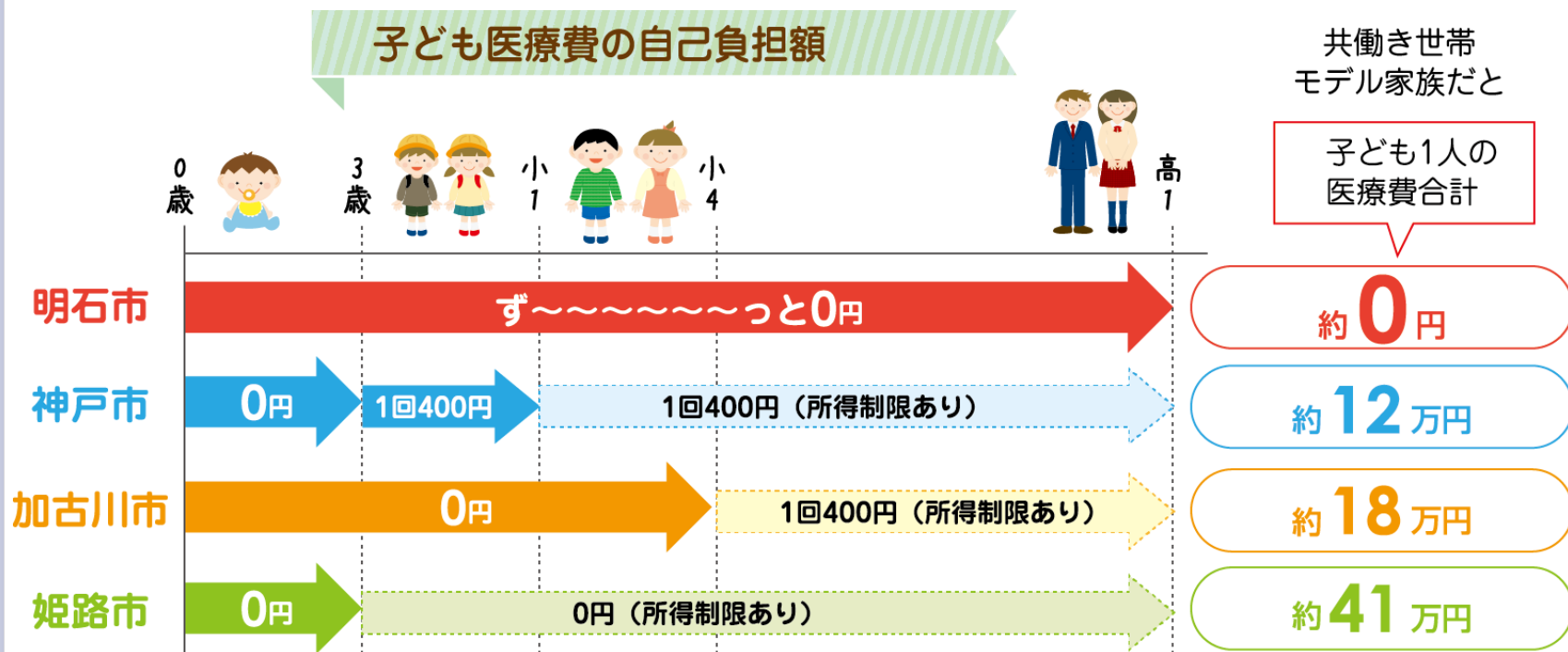
Point!

所得制限なし!

子育てに関心が高く、
教育熱心な世帯を呼び込む

① こども医療費

→中学生まで完全無料



② 保育料 → 第2子以降は完全無料

父 年収 450万円

母 年収 250万円



3人の子どもたちにかかる保育料・医療費は?

	明石市		独自の補助がない市	
	保育料	医療費	保育料	医療費
長男	約301万円	0円	約301万円	約56万円
長女	0円	0円	約199万円	約56万円
次男	0円	0円	約199万円	約56万円
合計	約301万円		約867万円	

1人目出産から3人目が中学校を卒業するまでの21年間で

合計約 **566万円** 負担減に!!

たとえば566万円あると...

2年に一度、家族揃って
南の島でゆっくり!(1回約54万円)



③ 施設利用料 → 何時間遊んでも無料



明石市立天文科学館



明石市立文化博物館



**明石駅前再開発ビル内
親子交流スペース「ハレハレ」**



明石海浜公園 プール

教育環境の充実

① 中学校給食、市内全校実施 (H30.4) 地産池消・食育・アレルギー対応

毎 日 新 聞

2018年(平成30年)4月19日(木)



明石市の全13中学校で始まり、給食を楽しんでいる2年生の10人中5名が笑顔。

これは…おいしい!!

明石市立全13中学校での一斉給食が出口、始まった。市が建てた市内の東西二つの給食センターから各校へ、出来たての給食が届き、生徒計約3000人が味わった。生徒たちはおかわりするほど、おかわり好評の様子。市教委は食育や地産地消の観点から今後、メニューにタコ料理なども取り入れ、地元の食文化への理解も図る。

朝霧中(前中大阪公園)では、白豆餡の生徒が手分けして配膳。この日のうちのメニューは、ごはん▽牛乳▽春雨などを炒めた韓国料理「チャムチェム」▽みそワタンスープだった。2年の西村未夢(みづ)さんは「想像以上においしい、お弁当と違ってみんなが同じ料理なので味の話もできる。昼食が楽しい時間になりそう」と話していた。

市立中の給食は、東部センター(前市和歌)が10校、西部センター(前市魚住町西)が3校分を調

明石市立全13中学校 一斉給食を開始

理・配膳する「センター方式」が採られた。当初の計画では2015年度に一斉開始予定だったが、しかし、東部センターで用地から雑草が取り除けなかったため完成が2年半遅れた。市は2016年9月から、西部センターが調理する3校分モデル実施し、一斉給食の開始は計画から3年半遅となった。

生徒が負担する給食費は1食308円、1年間で1万6000円、計5万6200円となり、市教委が徴収する。

県教委が各市によると、保護者の要望が強まり、中学校給食実施の自治体が増え、県内の公立中約350校のうち昨年年度までに8割前後が実現。神戸市は16年度に市立全中学校で取り入れた。高砂市も19年度、加古川市も今年度までにそれぞれ全実施の手定まという。

また、明石市は市立半数校内の地域施設を利用し、9月から1人暮らしの高齢者向けに給食(食費3000円程度)を提供する計画も進めている。

【西本年記】

② 少人数学級（30人学級）の段階的实施 （小学校1年生から）



③ 本のまちの推進

- **日本一の本のビル**

市民図書館と大型書店が駅前再開発ビルに入居
本のまちの拠点として位置づける



 あかし市民図書館
AKASHI LIBRARY

新図書館は以前に比べ…

一般書エリア
広さ約**4倍**

蔵書約**2倍**

座席約**3倍**

- ブックスタート…4カ月健診時にプレゼント
- ブックセカンド…3歳児健診時にプレゼント



- 子どもに伝えたい本感動大賞…本の帯コンクール



寄り添う支援

① 児童相談所の設置

法改正後初

② あかし版こども食堂

全国初

③ 里親100%プロジェクト

全国初

④ その他

- ・ 離婚前後のこども養育支援
- ・ 児童扶養手当の毎月支給
- ・ 無戸籍者支援

全国初

全国初

全国初

① 児童相談所の設置

法改正後初

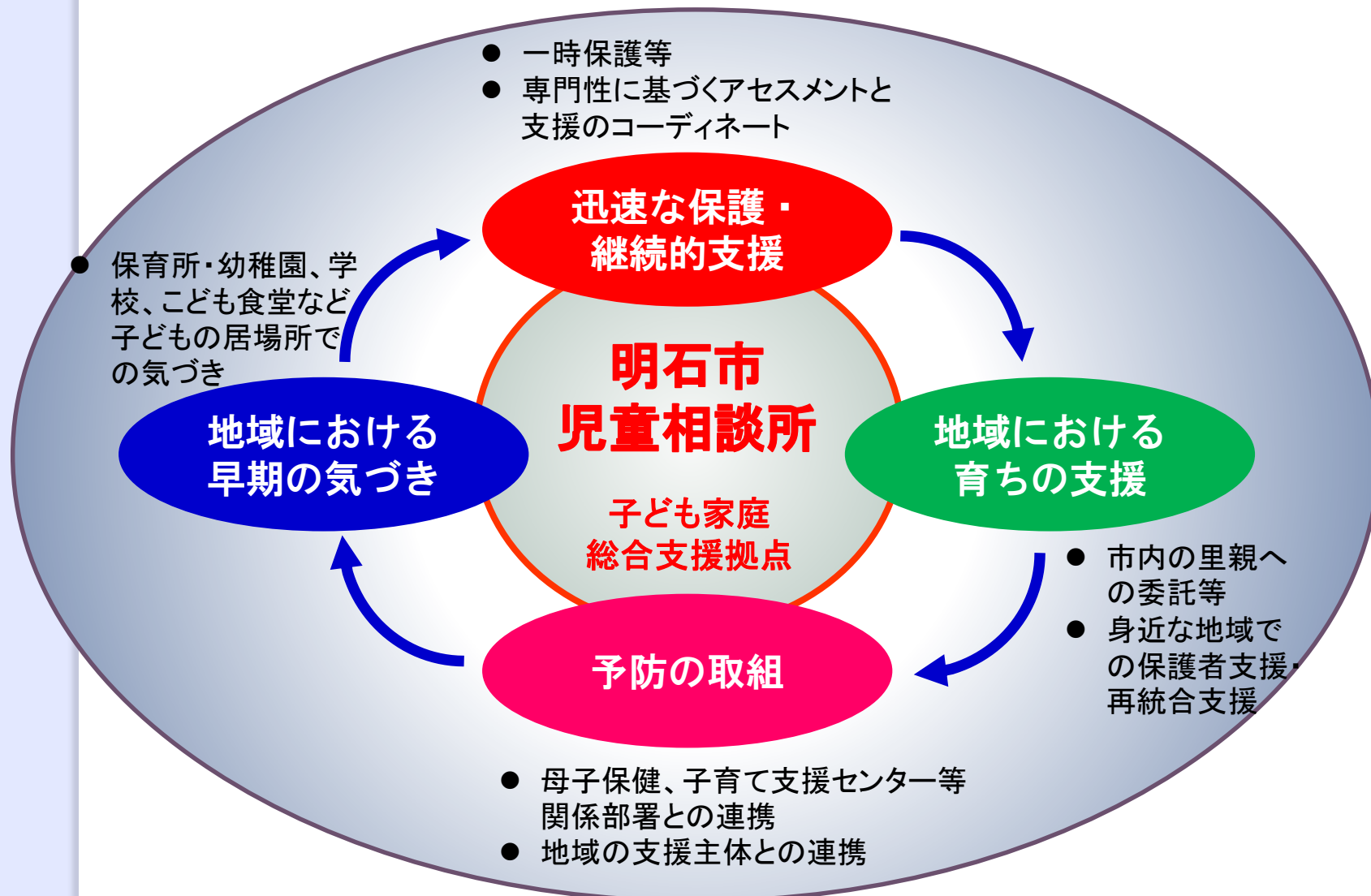
▷ 市有地（明石市立産業交流センター横の
駐車場内・JR大久保駅から徒歩3分）
に新築

▷ 4月に開設した保健所と隣接



完成予想図

児童相談所を核に、一貫したこども家庭支援を実施



② あかし版こども食堂 全国初

こどものみならず高齢者も

▷ **気付き・支援の拠点**



市内**全小学校区**
に設置予定



③ 里親100%プロジェクト 全国初



▷ 養子縁組に限らず、
ボランティア里親
(週末里親や季節里親)
など、より多くの市民に
協力いただける形を
イベントや**相談会**を
通じて紹介



④ その他

・ 離婚前後のこども養育支援

全国初

面会交流の支援 参考書式の配布

こどもの養育に関する合意書

1. 親権
こどもの親権については以下のとおりとします。

氏名	性別	生年月日	親権者
おのりがな	男・女	年 月 日生	父・母
おのりがな	男・女	年 月 日生	父・母

お子さんの健やかな成長のために
～養育費と面会交流～

こどもたちが安心して暮らし、健やかに成長していけるよう、離婚の際にお父さん、お母さんとしてできることを考えておきましょう。

合意書・養育プラン作成の手引き



平成24年4月1日より民法の一部が改正され、協議離婚の際には子の監護者（親権者）だけでなく、「面会交流」や「養育費」についても定めることとされ、その取り決めにあたっては、「子の利益を最も優先して考慮しなければならない」旨が明記されました。

四市は離婚前後の夫婦の世帯が離婚世帯、既存の可子とともに寄り添った支援を積極的に行っており、その一端として表題する。同市によると、居所等のひとり親世帯などを対象とした「児童扶養手当」の受給者のうち約5%にあたる約2千

明石市は31日、市内に住む離婚したひとり親世帯の親子に対し、養育費の確保に向け、新たな支援事業をモデル実施する、と発表した。養育費の取り決めを受け取りについて、調停申し立てや公正証書作成、給与の差し押さえなどを強制執行手続きをサポート。同市によると、同様の事業は全国初という。

(藤井伸哉)

養育費確保に向けた支援を発表する泉屋穂市長（左から）中略1



書類を説明。養育費の取り決めでは、家庭裁判所への調停申し立てや公正証書場で

離婚した「ひとり親世帯」に 養育費確保へ新支援策

市、調停など手続き補助

の公正証書の作成、受け取り支援では地方裁判所での給与差し押さえ手続きなどに携わる。いずれも、必要があれば各機関まで同行するという。

司法機関などへの手続きは「難しそう」「費用が多額」などのイメージがあるが、調停申し立ては2千円程度、強制執行手続きは4千〜5千円で行え、書面作成も市職員らの補助で比較的容易にできるといふ。泉屋穂市長は「養育費が子どもの手元に届き、子どものためにしっかりと使われるよう支援したい」と話した。児童扶養手当受給世帯の提出者などから希望を募る。成人前の子どもと親に向けて9月から来年3月まで実施し、対象や運用方法を再検討。次年度以降の本格実施につながる方針という。

無戸籍者支援

全国初

支援体制の構築 総合的支援の実施

▷ サポートナンバーカードの交付



無戸籍の子救済急ぐ

家庭の複雑な事情などを背景に親が出生届を出さなかった「無戸籍」の子どもの支援を拡充しようと、明石市は4日、無戸籍児の早期把握の方法を探る庁内チームを設けた。当事者や弁護士らが参加して支援の在り方を検討する組織も発足させる。いずれも全国に先駆けた取り組みで、支援者らは「全国の自治体のモデルケースになってほしい」と期待している。
(望月弘行)

明石市に新組織



同市は昨年10月、専用の相談窓口を開設し、弁護士出身の市職員ら3人に対応。これまで5件の相談を受け、戸籍の取得などを助言したり、調停や裁判を担当する弁護士を紹介したりしてきた。義務教育を受けていない40歳代男性に算数を教える支援も実施。男性は、今年3月までに計算や割り算などを学んで卒業。「買物した時に割引や約り銭の計算ができるようになった」と喜んでいました。
法務省によると、無戸籍者は全国で6,000人、兵庫

早期把握へ庁内連携 弁護士ら支援策検討

県で31人(いずれも8月現在)。明石市は現在4人で0歳児が2人、5歳と7歳が各1人いる。保育所などを通じて発覚したケースもあり、市は「病気が切実な状態になってからでない」と判断しないケースがあるかも」と、未確認児の存在を危惧する。
この日、設置された庁内チーム(市無戸籍者総合支援デスクフォース)は、児童福祉課や国民健康保険課、地域医療課などの係長ら職員11人で構成し、民生委員や病院、学校と連携し、早期把握に努めるという。

また、「支援検討会議」を28日に開く。無戸籍者や支援者、大学教授、弁護士、法務局の担当者がメンバーで、国民健康保険に加入する場合、未加入時の保険料が支払えなかったらどうするかなど、個別の様々なケースを話し合っていくという。
泉陽市長は「もっと早い段階で取り組むべきだった。支援の対象者が少数であっても、生まれてくる子どもはかけがえのない人。目の前で困っている人に出る支援をしていく」と話した。

三 こどもにやさしいまちは みんなにやさしいまち

例えば…

こども食堂からみんな食堂へ

- ▷ こども食堂はこどもだけの居場所ではない
- ▷ 地域みんなの気付きの拠点
- ▷ 高齢者も障害者もみんなが集まれる場所へ



明石市の「やさしいまちづくり」

障害者施策の紹介



STEP
1

STEP
2

手話言語・障害者コミュニケーション条例

全国初

条例の特徴

手話言語
条例

+

情報
コミュニケーション
条例

=

明石市の
手話言語・障害者
コミュニケーション条例

小学校での手話教室



職員手話研修



STEP
3

障害者配慮条例

〔 障害者に対する配慮を促進し
誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり条例 〕

- ・ 障害者差別解消法に合わせてH28. 4. 1施行
- ・ 特徴は「合理的配慮の促進」

見える優しさ次々と

明石市「障害者配慮条例」施行から半月



車いすでも出入りしやすいよう、市の助成を受けて導入した簡易スロープ
〓 明石市本町1のくろみや本店で

助成制度は、市民や事業者らが過重な負担を理由に障害者への「配慮」を断念しないよう応援する目的で設けた。飲食店の点字メニューなどコミュニケーションツール製作費（上限5万円）▽筆談ボードや折りたたみ式簡易スロープなど物品購入費（同10万円）▽簡易スロープや手すりなど工事施工費（同20万円）といった補助が受けら

簡易スロープ設置など

段差があり、スロープは障害者だけでなく、ベビーカーを運んだ母親からも好評だという。取締役の森本真一郎さん（35）は「後回しにしてしまうことが多いテーマだが、市の助成を受けて市の方と一緒に考え、短い期間で導入できた。地元根付いた店づくりを心掛けているので、障害者の方も安心してもらえるきっかけになれば」と話す。

助成で民間業者後押し

明石市が今月1日に施行した「障害者に対する配慮を促進し誰もが安心して暮らせる共生のまちづくり条例」に基づき、市の助成を受けて段差解消の簡易スロープや点字メニューなどに取り組んだ民間事業者が、14日時点で早くも8事業者（助成件数10件）に上ることが明らかになった。市が記者会見で公表した。他にも8事業者（11件）が申請中で、泉房穂市長は「具体的な形で、まことに優しさが見えてきた。行政として責任を持って後押しを続けたい」と話す。

14日現在で実施されたのは点字メニュー6件、簡易スロープ1件、筆談ボード3件。条例制定に向けた検討委に参加した民間事業者を通じて広がったという。
同市本町1の洋菓子店「くろみや本店」では、簡易スロープ、点字メニュー、筆談ボードを併せて導入した。入り口に8センチ

STEP
4

公的助成制度

全国初

合理的配慮の提供を支援する助成制度について

明石市では、障害のある人もない人もともに安心して暮らせる共生のまちづくりを推進していくために、事業者や地域の団体が障害のある人に必要な合理的配慮を提供するためにかかる費用を助成する。

1 制度を利用できる団体

- ① 事業者など民間の事業者
- ② 自治会など地域の団体
- ③ サークルなどの民間団体

2 助成の対象になるもの

合理的配慮が簡単に提供できるようにするためのもので、以下にあたるもの



コミュニケーション ツールの作成

点字メニュー
チラシの音訳
コミュニケーションボードなど



上限額 → 5万円

物品の購入

折りたたみ式スロープ
筆談ボードなど



上限額 → 10万円

工事の施工

簡易スロープや手すりなどの
工事の施工に
かかる費用

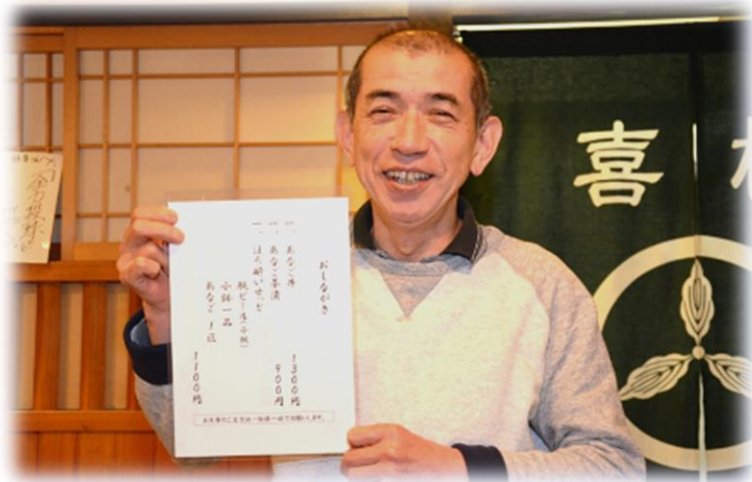


上限額 → 20万円

まちの様子



筆談ボード



点字メニュー



簡易スロープ

STEP
5

誰もが暮らしやすいまちへ

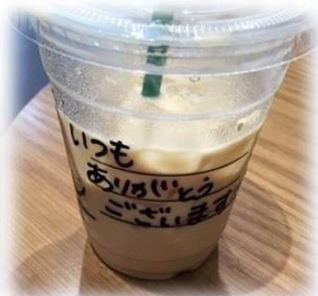


マクドナルド



観光案内所

スターバックス



市役所



TOPICS

やさしいまちづくりを推進する

“共生社会ホストタウン” 第1号に決定



共生社会ホストタウンとは...

2020東京オリンピック・パラリンピックを契機に、住民とパラリンピアンとの交流等を通じて、共生社会の実現に向けて取り組むまちのこと

夏休みに開催！

“第2回 ユニバーサル交流会”

日 時：平成30年8月25日（土）10：00～15：00

場 所：あかし市民広場 ほか

内 容：体験・交流

○耳の聞こえない方と一緒にジェスチャーゲーム

○パラスポーツ（車いす卓球やバスケ）など

ステージ

○R-1グランプリ優勝！濱田祐太郎さん

○別所キミエさん、かしわもちかずとさん



TOPICS

羽田空港・筑波技術大に続き、 自治体では初めて **“手話フォン”** 設置



明石駅前再開発ビル
「あかし市民広場」

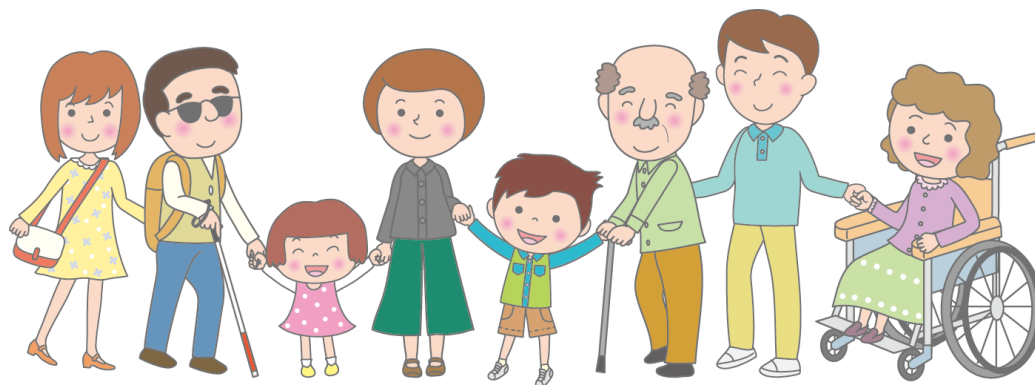


四 “やさしい社会” を明石から

“やさしい社会” とは・・・

お互いに 助けあい 支えあう

“あたりまえ” の社会



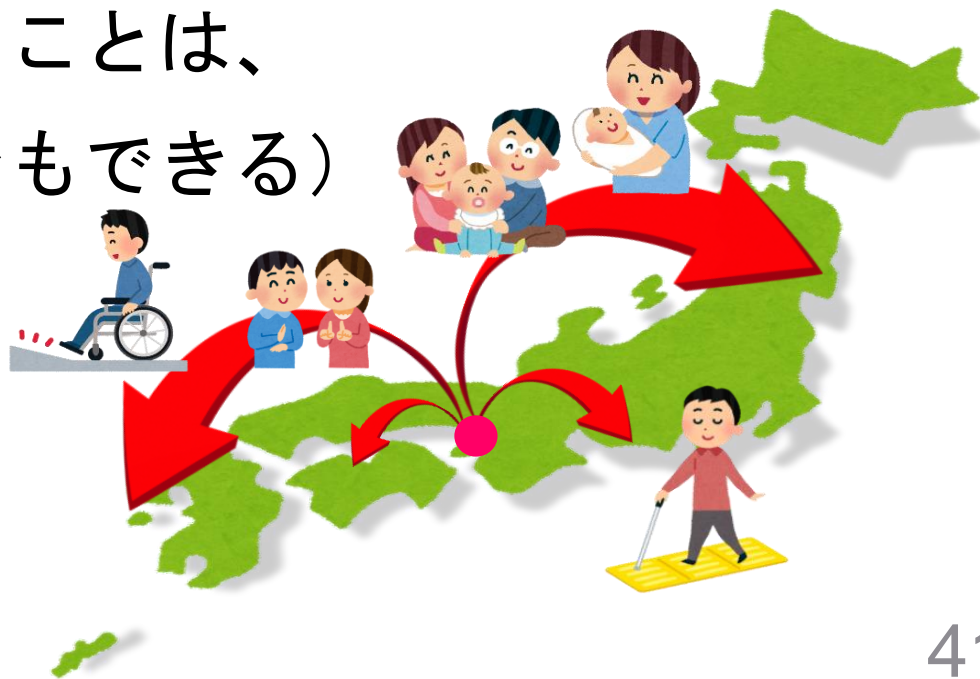
“明石から” とは・・・

① 国を待つことなく明石から

(市民により近い基礎自治体から始める)

② 明石から全国に

(明石市でできることは、
ほかの自治体でもできる)



そのために必要なのは・・・

① やさしさ

▷ 想像力、真摯に聞く姿勢

② かしこさ

▷ 洞察力、本質を見抜く力

③ ほんの少しの強さ

▷ 責任感、諦めない勇気



ご清聴ありがとうございました

